

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 8月号

2014年8月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：嶺井 志穂（宜野湾記念病院）

## 研修参加報告

琉球大学医学部附属病院 石郷岡 美穂

事例検討などグループワークを取り入れた多職種参加型の研修会が全国各地で取り組まれている。それは団塊世代が75歳を迎える2025年を見据えて国が様々な施策を展開していることにも関係する。

7月5日（土）に沖縄プライマリ・ケア研究会主催の講習会に参加した。当研究会は地域医療の要であるプライマリ・ケア医らで構成されている。講習会のテーマは『しなやかな多職種連携を求めて、在宅緩和ケア事例を考える』、講師はあおぞら診療所院長の川越正平氏。川越先生は千葉県柏プロジェクトと呼ばれる『在宅医療推進のための地域における多職種連携研修』の開発や推進に携わっておられる。

少々アウェー感漂う会場的那覇市医師会館には医師・歯科医師（多くが開業医）、薬剤師、看護師、リハ、居宅・包括のケアマネジャー、保健師、医学生など多彩な人々が集まった。当協会からは7名が参加した。前半は川越先生からイントロダクションの講義と事例紹介、同職種の作戦タイム（次の多職種グループワークで自職がアピールできることを出し合っておく）、そして8つのグループに分かれ事例検討が始まった。

事例は在宅緩和ケアを受けている胃がん術後の78歳男性で、痛みのコントロールが不十分であり服薬にまつわる課題や症状への対応を多職種で話し合うという設定だ。職種別に配布されたシナリオには仕掛けがあり、自職だけが持っている情報が盛り込まれている。グループワークは各自の情報を全体共有すると、診察だけでは得られない患者の生活情報をすぐに医療に反映できることや、医療のみたてをもとに提供すべきケアや支援の方向性をつかめることを実感できるような構成となっていた。

後半は川越先生からオピオイドスイッチングのミニレクチャーと『なぜ今、医療介護連携が必要なのか』の講義を受け、全体質問と意見交換で2時間の講習が終了した。帰り際に知り合いのドクターから「医者研修でこれだけコミディカルが集まり活発に意見交換できるなんて感動したよ」と声をかけられた。地域での医療介護連携構築において我々MSWもその存在を確かなものにしていくために、自身の立ち位置や役割について問いなおす機会となった。

### CONTENTS

研修参加報告	1
7月定例会報告	2
めだかの学校参加報告	2～3
運営委員会議事録	3～4
学習委員会のお知らせ	4
はいさいワーク	5
コラム「ある日の相談室」	6

## 7月定例会報告

小祿病院 新城 美香子

平成26年7月12日(土)に那覇市立病院にて定例会がありました。今回はスーパービジョン～実習生・部下を育てることは、自分も組織も育つこと！～と題して、竹沢昌子氏による講演とワークショップとなっていました。

まず、グループディスカッションでは実習生や部下に何を伝えたいかということで、個々人でソーシャルワーカーとして大事にしていることを挙げて、話をしていき、その中から一つに絞って、どのように伝えていけばいいか、どうやったら伝わるかについて話し合いました。それぞれのグループから出てきたことは、伝えることとして、クライアントの価値観が大切ということ、クライアントの立場に立つことの大切さ、利用者を尊重すること、ソーシャルワーカーの専門的支援とはなにかなどが挙げられ、それらのことを、誰を対象に、どのような手段を用いて伝える場面で伝えるかを発表していきました。普段は一つのテーマを決めてどのように伝えるかと具体的に考えていなかったもので、演習を通して伝えるためにはどのようにするべきかを具体的に考えることができるきっかけができました。ポイントは、伝えたいという思いがあって、初めて伝わるということ、育てる＝育つということ、また、伝え方にはいくつもの選択肢や可能性があり、相手に応じて伝わりやすい方法を検討することだそうです。

また、スーパービジョンを2人ペアになり、実際にやってみました。スーパーバイザー役を先輩ワーカーがやるのが前提で行いました。私も先輩を相手にスーパービジョンをしてみて、スーパーバイザーがどのように悩んでいて、クライアントとの関係をどうしていきたいかということやバイザーの良いところや良い気付きはないかなど、いろいろなことを思い巡らしながら、話をしていきました。ポイントはバイザーがきちんと自分の気持ちを表現できたり、新たな視点を持つようにすることが大切だということが解りました。普段はバイザーとして相談している先輩へのスーパービジョンは本当に緊張しましたが、いい経験をすることができました。今回の研修を参考に8月から始まる実習を進めていこうと思いました。また、実習生や部下を育てることは組織や自分自身の成長にもつながっていくことなので、今後も取り組んでいこうと思います。

## めだかの学校参加報告

沖縄セントラル病院 高澤 信哉

7月16日(水)に与那原中央病院で7月のめだかの学校が開かれました。

今回は事例検討会を行い、事例提供者は与那原中央病院の満名さん、スーパーバイザーは大浜第二病院の安慶名さんでした。

事例は「治療を自己中断されている精神疾患既往歴がある患者へのMSWの対応について」で、精神疾患の既往歴がある患者が外来受診に来た際の対応が適切であったかどうかを検討しました。

その中で、この事例における「MSWの役割」をマイクロ(対クライアント)・メゾ(対病院)・マクロ(対地域)へと分類して考えることとなり、参加者が2～3名に分かれてこの事例におけるMSWの役割やより良いアプローチ方法はなんだったのかを話し合い、発表しました。

私自身も、日常業務の中でMSWとしての自分の立ち位置に迷う時が多くあります。そんな時は一度立ち止まって、マイクロ・メゾ・マクロの視点で現状を見つめなおして、進むべき方向性を考えていきたいと感じました。

自身の業務についても見つめなおせた、とても有意義な時間となりました。

発表者の満名さん、日々の業務でお忙しい中の発表おつかれさまでした！

## 平成26年7月運営委員会議事録

参加者（敬称略）：樋口、新垣（司会）、當銘、安慶名、新城、奥平、伊禮、望月、石郷岡（書記）

### \*研修部：望月（ハートライフ病院）

- ・ 7月定例会：アンケート報告 7/12 『スーパービジョン研修』 参加者38名、回収22名  
概ね高評価。スーパービジョン総論、ロールプレイが時間不足の感想。
- ・ 8月定例会：8月17日（日）県民健康フェアに振替 ブース担当病院の割り振りはこれから
- ・ 9月定例会：9月24日（水）14:00～ 場所：沖縄県医師会  
＜老健支援相談員との合同研修会&交流会＞
  - \* テーマ：胃ろう問題から高齢者の終末期を考える（仮）
  - \* 予算：老健協会と折半
  - \* 8/5老健協会と打ち合わせ 当協会からは望月、香村、池間3氏が参加
  - \* 病院機能別に発言者をたてる（急性期、回復期、療養）→調整中
  - \* 配布資料、グループワークのテーマ、グループワークのファシリテーターを考えておく
- ・ めだかの放課後：8月11日（木）19:00 場所：中頭病院
  - \* 内容：県民健康フェアの最終打ち合わせ
  - \* 進捗：Q&A方式のパネル制作、景品準備、
- ・ めだかの学校：8月12日（水）19:00～ 場所：中部徳洲会病院  
講師：新垣哲治（中部協同病院）
- ・ がん相談支援員研修：9月28日（日）兵庫医科大学 大松重宏先生
- ・ 10月定例会：九州大会予演会、事例検討会
- ・ 11月宿泊研修：
  - \* 日程：11月22日（土）、23日（日） 場所：名護市内
  - \* テーマ：本人・家族・多職種で行うカンファレンスのポイント（講義とワークショップ）
  - \* 講師：片岡靖子氏（久留米大学）
  - \* 予算：勇美記念財団助成金

### \*広報部

- ・ 8月号の編集担当：嶺井氏（宜野湾記念病院）

### \*社会活動部

- ・ 県民健康フェア：8/17（日）12:00～16:00  
>>担当時間、病院割り振り：中頭病院  
パネル作成、景品準備：大浜第二病院  
集合時間等確認し、各病院へ連絡する

### \*事務局

- ・ 勇美記念財団助成金の採択決定（30万円）。H27年8月に事業報告
- ・ 外部からの講演会広報依頼：在宅医療を支える人のための講演会（専門職向け 8/23・一般市民向

け 8/24) →承認

- ・平成26年度健康づくり運動実践活動団体助成事業助成申請→7月末締め切り  
医療ソーシャルワーカーの普及啓発活動事業として(病院・施設の機能等の知識、介護・がん難民予防に関係する内容の広報等)申請する。
- ・小原真知子先生：8月、11月に帰省 勉強会の講師ご協力いただける→めだかの放課後
- ・今年度の会費引き落とし日：8月11日

### \*会長

- ・『退院支援・調整デザイン』に関する調査：包括や居宅との実務レベルの意見交換・勉強会が、各地区で実施されている。ケアマネから情報提供希望の多い内容について各病院へアンケート調査を行い集約後、リーフレット等を作成予定。>>>承認

次回理事会：8月25日(火) 18:30～ 司会：又吉 書記：安慶名 連絡係：島袋

## 研修部よりお知らせ～平成26年8月～

### 8月定例会

県民健康フェアへ振り替え

日時：平成26年8月17日(日) 12:00～16:00

場所：沖縄コンベンションセンター 展示場内

内容：県民健康フェア

9月の予定：9月24日(水) 14:00～17:00

場所：沖縄県医師会館

内容：老健支援相談員との合同研修会(交流会)

胃瘻問題から高齢者の終末期を考える(仮)



### めだかの放課後

日時：平成26年8月11日(月) 19:00～20:30

場所：中頭病院 2階 会議室(沖縄市知花6-25-5)

内容：①県民健康フェアの準備と打ち合わせ

②その他



### めだかの学校

日時：平成26年8月12日(火) 19:00～20:30

場所：中部徳洲会病院 4階講義室(沖縄市照屋3-20-1)

内容：地域包括ケア・療養病棟におけるMSWの役割

講師：新垣哲治氏(中部協同病院)

9月の予定：9月9日(火)：年金

●那覇市立病院：契約職員(医療ソーシャルワーカー)

採用職種	医療ソーシャルワーカー(社会福祉士) ※総合相談センターにて勤務	
業務内容	医療ソーシャルワーカーとしての職務全般	
採用人数	1名	
応募資格	(1)社会福祉士の国家資格を保持していること (2)Word,Excelの基本操作が可能であること  ※上記に加え、急性期での経験がある方、また精神保健福祉士保持者がより望ましい	
契約期間	入職可能日より～平成27年3月31日(年度契約、更新あり)	
給料	日額制、賞与有(年44日分) 資格取得後の経験年数により昇給します	
	経験年数1年未満	日額:7,600円 賞与:334,400円(年)
	経験年数1年以上3年未満	日額:8,260円 賞与:363,440円(年)
	経験年数3年以上5年未満	日額:8,530円 賞与:375,320円(年)
	経験年数5年以上	日額:8,800円 賞与:387,200円(年)
	※賞与は在職期間による割落としがあり、上記金額を保証するものではありません。	
勤務	原則 8:30～17:15/月～金(部署により早出あり)	
手当	賞 与:有り(年2回 計2ヶ月分※在職期間による割り落としあり) 通勤手当:有り(実態に応じ非課税の範囲内にて支給。当院規程による) ※2km以上から 退職手当:無し	
年金・保険	厚生年金、協会けんぽ、雇用保険、労災保険	
備考	職員用駐車場:無し ※バイク通勤の場合、敷地内指定スペースに駐輪可能(有料)	
応募方法	電話にて面接の日程調整を行います 面接時に履歴書を持参してください	

総合相談センター 電話:098-884-5111内線127:樋口

## コラム ●ある日の相談室●

担当：K・S

### ●・・・海を見渡せる山小屋暮らしをみんなで支えて・・・

Tさん（男性・79歳）は主治医より「進行がんで転移もあり、本人、家族も積極的な治療を希望されないため、今後は緩和ケア病棟の調整をして欲しい。」と紹介があり関わった患者さんです。

これまでの生活状況を確認すると、15年ほど山の中の小屋で一人暮らしをしており、缶をひろって生計を立てていたとのこと。兄夫婦が定期的に通い缶詰やお米など食料品を届けて見守っていたようです。前回退院後はいったん兄の家に引き取りましたが、本人が山の生活に戻りたいとの希望あり。兄の所有する畑の作業小屋を生活できるよう整えて、そこで生活保護を受給しながら生活していました。

本人と面接し気持ちを確認すると「畑をやっていたのでそこに帰りたい。早く帰って水をあげないといけない…」とすぐにでも退院して畑の様子をみたいという希望がありました。家族も「受け入れできる病院を探して欲しいけれど、本人の強い希望があるため少しの間は畑に帰してあげたい」との事でした。

家族にホスピスの申し込みを済ませてもらい、短期間自宅で生活できるかどうかを確認するため、本人、家族、PT、地域のケアマネ、訪問看護Nsと共に自宅訪問を行いました。Tさんは杖歩行も介助なしでは難しく、フォーリーや薬の管理も必要な状況であったため、当初MSWを含めスタッフは在宅での生活は難しいのではないかという思いがありました。けれども実際に家の様子を見に行ってみて、関係者は一同に「ここでやってみましょう。」とすぐに意見が一致しました。その畑は小高い丘の上で遠くに海を見渡す事ができ、畑にはいろいろな作物が育っていました。本人があれほど強く「帰りたい」と切望した気持ちを、一緒に行ったスタッフみんながずっと理解することが出来ました。何よりも、本人の生き生きとした表情が印象的でした。結果Tさんは、ケアマネやヘルパー、訪問Dr、訪問Nsが熱心に関わっていただき、在宅で1年以上も元気に生活することが出来ました。

患者さんと関わる時にいつも大切にしたいと思っている事は、その方の「生き生きした表情」にどれだけ触れることが出来るかという事です。それは誇りを持って取り組んでいた仕事の話であったり、長年連れ添ってきた家族の話であったり、ずっと生きがいにしてきた趣味の話であったり、その人その人によって本当にさまざまですが…。その方が大切にされてきた事を、医療チームや関係機関の方たちと大事に共有していけたらと思います。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

h t t p : / / w w w . m e w - e a e w h e . j p /

### ☆編集後記☆

暑い日が続いていますね。祭りやビーチパーティー、高校野球とまだまだ楽しいことが目白押しですが、体調に気をつけておもいきり楽しみましょう♪♪  
お忙しい中、原稿依頼を快く引き受けていただいた皆様、本当にありがとうございました！！

